

化石のいろいろ

化石とは、過去の自然の生物の遺骸や生活した跡が、地層に含まれているものを言います。貝の化石が最も代表的ですが、植物の葉や実、鯨や象・鹿など哺乳類の化石、鮫の歯など魚類の化石などのほか、ウニの這った跡や恐竜の足跡、カニの巣穴なども化石となります。化石というと、石になっているものだけを想像する方がいますが、貝殻だけでも、貝の色が残っていても、地層から見つかれば化石です。縄文人が貝を食べて捨てた貝塚の貝は化石とは言いません。化石は海に堆積した地層から産出することが一般的です。

平塚周辺は、過去1700万年間にわたり、海になったり、陸になったりを繰り返しているため、いろいろな時代の化石が見つかっています。

今回の寄贈品コーナーでは、平塚周辺で見られる6000年前・13万年前・50万年前・200万年前・500万年前の5つの時期の地層から産出する、いろいろな化石を紹介します。現在では、かつてあった化石産地がほとんど消滅してしまいましたが、大磯町の西小磯の海岸では、まだ化石を見ることができます。平塚の市街地は、6000年前に最も奥まで（大神付近まで）海におおわれており、地下を工事で掘削すると、たくさんの化石が見つかることがあります。東豊田や徳延のポンプ場の工事では多量な貝の化石が見つかっています。そんなときには、是非、博物館にご一報ください。

平成15年11月1日（土）～11月30日（日）



小田原厚木道路 大磯パーキングエリアの工事中に見いだされたホタテガイ類の貝化石